



夫婦で営む「丸長食堂」の一番高いメニューは680円の「鳥バタ定食」。懐に優しく、レトロな店内はどこか懐かしい

10 hours pleasure

10時間のちいさな旅



高円寺 商店街をめぐる冒険

「アイデン&ティティ」は高円寺のアパートで真新しいながら幸せに暮らしていた。映画化したみうらじゅんの漫画「アイデン&ティティ」で主人公の中島が歌う「コマ・ブーム」に翻弄されたロックカーの姿を描いた青春劇だ。物語の舞台で、ロックや若者文化の発信地、高円寺の現在を求めて商店街を歩いた。

「男だったらバーボンを飲め!」。「純情商店街」を歩くと奇妙な商店街放送に耳を奪われた。広告主は「バーボンハウス」店主のバーボンさん(40)。毎月自作するキャッチコピーは高円寺名物だ。効果は絶大で、カップルがクスクス笑いながら歩いていた。いつの間にか「あづま通り

区商店会連合会によれば、高円寺駅周辺には13以上の商店街が密集している。あづま通りの理髪店「ジブシーウェイ」はパンクファッションの泉美さん(41)が1人でやりくりする千円カットの店だ。「千円札1枚、15分足らずでモヒカンに」と評判のパンクの拠

に迎え、伝統的な欧州のレスリングを伝えてきた。「本場欧州ですら失われてしまった技術を教える世界で唯一の場所がこの高円寺」と胸を張る。迷い込んだ小路に行列を発生。銭湯「小杉湯」の開店を待つ人たちが。経営者の平松茂さん(50)は改装を機にギヤラリーを設置し、若いアーティ

プキャパシティ」など複数の古着店が集まる。中通りの終点「北中通り商店街」の副会長、松本哉さん(35)は05年にリサイクルショップ「素人の乱」を始めた。以降、松本さんの賛同者が次々と店を増やして「素人の乱」は現在、高円寺に7店舗。「この町はよそのOKという考えが浸透している」と松本さん。著書「貧乏人の逆襲!」によれば「祭りの縁日だの火の用心だのという間をウロチョロしていれば、それで初めて地域の中の人になり、何だかんだと楽しいことができるようになってくる」。



12年目を迎えた「スネークビットジャパン」には、コーチのロビンソンさんの写真が飾られている



1日約300人が入浴する小杉湯のギャラリーは展示無料。2012年まで予約済みという人気だ



JR中央線の高架下は、昼間でもビールを飲める屋台から、古書店までそろっている

ドクロのシール、イベントのチラシなどが張られた理髪店「ジブシーウェイ」の玄関はライブハウスのよう

「中通り」の別名は「ピンク通り」。少しいかがわしい光景も、わずか30メートルで終わるのがご愛嬌

高円寺は「こだわりのある人だけを対象に商売できる場所」と「ニカンブーフキャパシティ」の店長

「ベイビーキングキッチン」のボリュームたっぷりのお子様ランチは1100円。「お姫様ランチ」もある

「機材を壊さず、店外から酒を持ち込まない限りは何をしてもいい」と「無力無善寺」のオーナーは話す